

## 鼻背の spindle 切除で、正面の丸みは改善できるのか

大橋 菜都子<sup>1</sup> 福田 慶三<sup>1</sup>

Natsuko Ohashi<sup>1</sup> Keizo Fukuda<sup>1</sup>

ヴェリテクリニック<sup>1</sup>

鼻尖縮小術後の polleybeak 変形に対しては、鼻背皮膚の spindle 切除が報告されている。当院でも、同様に皮膚を切除する事で側面の改善を得てきた。また手術既往の有無に関わらず polleybeak 変形を認め、かつ正面での丸さを認める症例に対して、正面での改善が得られるかと考え、皮膚切除に加えて周囲の皮下組織・瘢痕組織の切除を行なってきた。

それらの経過および問題点につき、報告する。

- 1) 正面変化は満足しているが、側面の polleybeak 変形を主訴とする :6 例
- 2) 他院で鼻尖縮小術を受けるも、丸みの改善が得られず、丸みを主訴とする :5 例
- 3) 手術既往はなく、丸みの改善を主訴とする :1 例

の 12 例に対し同方法を行なった。

全例で改善は認めたが、軟部組織や瘢痕組織を切除することによる陥凹や、dog ear 変形により hump ができ、修正術を行なったものも少なくない。

spindle 切除はシンプルながらも、軟部組織の切除量のバランスが難しく、改めて改善の余地があると考えている。